

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892900010		
法人名	株式会社 桑林		
事業所名	グループホーム 江戸崎桑林	ユニット名	
所在地	〒300-0504 茨城県稲敷市江戸崎甲4864-3		
自己評価作成日	平成25年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892900010-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月13日	評価機関 決定日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. カラオケが好きな利用者様が多いので、デイサービスが休みの土、日を利用してカラオケを楽しんでもらっています。
2. 利用者様の必要に応じて、職員が同行して買物や銀行に行けるように支援しています。
3. 毎週金曜日に八百屋さんが来て、店開きをしているので買物を楽しむ利用者様もおられます。
4. 週に2回位、利用者様の希望を聞いて献立に取り入れています。
5. 毎月季節感のある行事を行なっています。
6. 利用者様の誕生日に記念になるプレゼントをさしあげています。
7. 施設で猫（名前はター）を飼っており、利用者様が可愛がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の近隣にはファミリーレストランや大型スーパー、銀行などがあるため、職員は日頃から買い物や散歩など、利用者が楽しめる支援をしている。
廊下に3台の加湿器を設えたり、各利用者の居室の片隅に濡れタオルを2枚かけ、住まい全体を常に湿度60%を保つように空気調整をし、感染防止も含めて安全で過ごし易い環境になるよう努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目につく所に掲示しています。	<p>昨年の10月に理念について全職員で話し合い、更にわかり易い表現に修正している。</p> <p>理念を玄関や事務室に掲示し、職員に周知を図っている。</p> <p>週初めや2ヶ月に1回のミーティング時に、理念を再確認しながら共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、施設内に地域のボランティアに来てもらったり、近所の美容室に散髪に来てもらっています。敬老会にも参加をしています。	<p>町内会に加入し、市主催の敬老会に参加したり、江戸崎祇園祭の神輿を事業所のすぐ近くまで来てもらって見学したり、小野川で打ち上げる花火を見学したりして、地域の一員として生活する中で楽しめるよう支援している。</p> <p>近所にある美容室から毎週火曜日に一般の料金よりも安い値段で散髪してもらうなど、利用者が日常的に地域の人々と交流ができるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れて認知症のある人の理解や支援の方法を伝えています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で区長や民生委員などから得た情報でお祭りや節分に参加したり、ボランティアの方に来てもらっています。	<p>市職員や医師、社会福祉協議会職員、区長、民生委員、家族の代表、管理者等で2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。</p> <p>会議では事業報告や意見交換のほか、委員から出た「事業所の看板がなく、始めて来る人には場所が分かりにくい」等の意見を受け、早速看板を取り付けるなど、サービスの向上に活かしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に市役所の方に伝えています。	市職員は運営推進会議に必ず出席しているので、その機会を最大限に利用して相談や報告をしている。 管理者は職員の変更なども書類を郵送するのではなく、市役所を訪問して市担当者に口頭で説明しながら提出している。 苦情までには至らない事例も早い段階で市の担当者に相談し、密に連絡を取る事でお互いの信頼関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や勝手口の施錠をしていません。 日中自分の好きな時間に近くを散歩している方もいらっしゃいます。一人で立ち上がって歩くと転倒の危険のある利用者様には、職員が利用者様の移動したいという欲求に応えるように対応しています。	身体拘束排除については、身体拘束禁止事例をあげて研修を行い、日頃から身体拘束をしないケアの実践に努めている。 玄関は日中いつでも誰でも自由に出入りができるように施錠はしていない。 前回の外部評価で次のステップに向けて期待したい内容に挙げられていた、やむを得ず身体拘束をする際の家族等への説明書や同意書等は整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティングを行ない、職員間で虐待行為の再確認や事業所内で見過ごされていないか検討し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要になる可能性もあるので、研修に参加したり、社内研修を行ない管理者、職員で学んでいきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に家族の方に説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。面会時や家族会の時にも意見を聞くようにしています。 また、日頃から利用者様の要望を伺うようにしています。	玄関に意見箱を設置している。 運営推進会議や年1回の家族会で集まった時を利用して家族等の意見を聞いたり、家族等が面会で来所した際に意見を聞き、利用者毎に記録簿に記入して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼、夕礼の時に出てくる職員の意見を聞くようにしています。	管理者は月1回ミーティングを行い、職員の意見を聞いている。 職員が勤務の都合が悪くなった時などには柔軟に変更し、職員が働きやすい環境になっている。 職員から出た「布団が汚れているので布パンツよりリハビリパンツに変更するよう家族と相談した方がいいのでは」などの意見等を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を聞いて行なっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に配慮し、内外の研修を受けるように勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	6ヶ月に一回、地域包括支援センター主催の認知症対応型共同介護事業所連絡会議に参加し、問題点などを話し合っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたって本人、家族、ケアマネから情報を集め安心してグループホームで暮らせる様環境づくりや声かけに工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、申し込み時、契約時など、家族より困りごとや要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がグループホームに何を求めているか良く話を聞き、利用してもらうようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳、布巾たたみ、食事の声かけなどをお願いし、役割を持ってもらうことによって支え合う関係を作っています。また、昔からの知識や、やり方を教えてもらうこともあります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでイベントを企画して家族の方にも参加してもらいます。受診に付き添える家族には、受診をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の家族、親戚をはじめ友人や知人が来訪して下さっています。今後も来やすい雰囲気作りを継続していきます。	利用者の友人や家族などが来所した際には職員から積極的に挨拶をしてお茶などの接待をし、遠慮しないでいつでも来ていただけるよう配慮している。 かかりつけ医への受診や墓参り、馴染みの美容院など、今まで大切にしてきた場所や人との関係が途切れないよう、家族等の協力を得ながら支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士の関係を大切にしながら、全員のレクや行事を行なうことで、利用者様全体のコミュニケーションを深めていきます。また、集団が苦手な利用者様には職員が個別で対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方が多く、施設からの問い合わせ、相談があれば応じています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で利用者様の意向の把握に努めています。把握したものに関しては申し送りや職員会議にて情報を共有し、対応を話し合っています。	管理者や職員は利用者の入居前の生活歴を把握したり、日々の会話から思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。思いや意向を表出できない利用者の場合には、利用者の表情や行動から意向の把握に努めたり、家族等から話を聞いて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会の時や家族会の時に家族、友人、親戚の方から話を聞かせてもらっています。日々、生活の中で本人からも話を聞くときもあります。把握したものについてはアセスメント表に反映し、職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記録をして職員間で把握しています。カンファレンスを行ない、現状について報告し合い、話し合っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、必要時、医師、看護師の意見を聞き、カンファレンス時職員で話し合っって介護計画書を作成しています。	日常生活の記録を基に利用者や家族等の意見を取り入れて毎月モニタリングをし、6カ月から1年毎に介護計画を見直している。心身の状態に変化が生じた場合にはその都度介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様とのコミュニケーションをとり、気が付いた事を記録しています。重要なことは申し送りノートに書いて職員間で話し合い、直ちに実践できるようにはかっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行訓練や、ペン習字等のリハビリを行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書の好きな方には、市の図書館に行き本を借りたり、CD、DVDを借りて楽しんでもらっています。稲敷市の招待で敬老会にも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回7名の方は、協力医療機関の医師による往診を受けています。2名の方は希望の病院を受診しています。必要に応じて家族や主治医に相談しながら個別に専門医を受診してもらっています。	利用者のかかりつけ医への受診を支援している。 協力医療機関以外のかかりつけ医を受診をしている利用者は2名のみで、家族等が付き添って受診をしている。 どうしても家族等の都合が付かない場合は、事業所の職員が同行して受診の支援をしている。 月2回の訪問診療と健康管理等に協力医療機関の医師や看護師に来てもらい、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、看護師の定期的な訪問を受けており、気付いたことを相談し伝えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に紹介状を書いてもらったり、生活サマリーを提供し、入院治療がスムーズに行なえるようにしています。入院中は時々病院を訪問し、経過を把握し家族と病院と協力し、早期退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り介護の指針とマニュアルを作成し、職員の勉強会を行なっています。これに基づいて早い段階から本人、家族、職員と話し合いを持ち、支援していきます。	事業所は、「看取りの希望があり、医師の意見を求め、可能と判断された場合は看取りを行う」指針を契約書に定めている。 医療とのチーム連携を強力にした支援体制づくりや看取りに関する職員研修を行うまでには至っていない。	終末期などの介護は職員の負担が大きく、医師や看護師などの医療とのチーム連携を強力にした支援体制づくりと職員の看取りに関する研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルから知識を高めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっています。災害時の水と食料の3日分の備蓄を行なっています。避難訓練の参加を近隣住民へ声かけをします。	夜間を想定した避難訓練を実施訓練計画や避難訓練担当割り振り、避難訓練進行表の基で年2回行っているが、地域の協力体制を築くまでには至っていない。 飲料水、パン缶、バスタオル、毛布、タオルなどを備蓄し、消費期限等もチェックしてしっかりと管理している。	運営推進会議や町内会等に呼びかけ、地域住民の協力を得て避難訓練が実施できることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけないように配慮しながら声かけを行なっています。	トイレ介助をする利用者への言葉かけは、周りの利用者に知られないよう小さな声や手ぶりで対応し、誇りやプライバシーを損ねない支援に心がけている。 契約書などの書類は事務所の鍵のかかる書庫に収納し、個人情報への漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は職員に対して、自分の希望を話しています。急に話されても対応ができない時や希望事態が適切でない時は職員間で話し合い、対応の仕方を検討しています。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活パターンの把握に努め、本人のペースを尊重しながら暮らしの支援を行なっています。ほぼ毎日昼食から起きてくる利用者様もいらっしゃいます。	/		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室の方が定期的に来てくれ、利用者様の髪型を聞いてカットしてもらっています。別の散髪屋に行っている方もおられます。職員付き添いで自分で衣服を買いに行かれる方もおられます。自分でその日に着る服を選んで着ている方が半数いらっしゃいます。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の夕食に利用者様の好きな食事を作っています。パンの好きな方は、週に2回朝食に提供しています。利用者様にも配膳、下膳食器の拭き上げも手伝ってもらっています。	食材は栄養のバランスを考えて宅配業者を利用している。 利用者はできる範囲で職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。 毎週日曜日の食事は利用者の好きな献立を取り入れ、利用者と一緒に買い物や食事作りの支援をしている。 食事会は事業所から近くにあるファミリーレストラン等に行き、利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	信頼のできる業者から食材を購入しており、栄養バランスに配慮された献立になっています。各利用者様の健康状態に合ったご飯の量を提供し、お腹のすく方は自分で購入した菓子、果物、飲物を居室で召し上がっておられ、水分量も毎日記録し、水分摂取量が少ない方には声かけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には、声かけや見守りを行なっています。自発的に行なう方が多くいらっしゃいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導やトイレ介助を行なっています。1～2名の方は転倒の危険が高いため、夜間のみオムツ対応で行なっています。	排泄チェックシートで個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。 夜間はオムツを利用しているが、昼間は全員がリハビリパンツや尿取りパッドを使用しており、個々にトイレ誘導をして排泄支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を積極的に行なってもらうよう声かけをし、服薬によっても便秘にならないようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	概ね週3回男女を分けて入浴して頂いております。利用者様の体調や気分に合わせて柔軟に対応しています。	2日に1回は入浴ができるように支援している。 入浴を拒否する利用者の中には、時間を空けて再度声をかけて入浴を促したり、職員を替えたりして、工夫をして支援している。 冬至には柚子を利用して季節を感じてもらったり、香りを楽しんでもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様自身のペースに合わせて22時には就寝して頂いております。6時30分位には皆さん起きていらっしゃるが、1名の方は10時頃までは横になっておられます。昼からは昼寝もしている方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明があり、職員はファイルを見て把握しています。バイタルや体調の変化にも気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、役割を持っていただいたり、好みのレクリエーションを行なっています。利用者様のお誕生日会を行ったり、踊りのボランティアに来てもらったり季節の行事を行なっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿って買物、銀行、図書館等に出かけています。年に2～3回外出に出かけています。出かけられる時には季節の花などを見にドライブに行く時もあります。利用者様が家族の冠婚葬祭に出られるように職員が送迎することがあります。	利用者の希望にそって買い物に出かけている。 重要事項説明書にも年間の行事計画が示されており、桜の花見、菖蒲見学、吊るし雛見学など、毎月外出支援が行われ、利用者が季節の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	5名の方は小遣い程度の現金をお持ちです。 そのうちの3名は通帳も自分で管理をされています。4名は小遣い程度の出し入れも難しいので、職員が現金、通帳を管理して必要に応じて出し入れを行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を利用している方が2名いらっしゃいます。2名の方が職員の手助けにより携帯電話を使用して家族と連絡を取っていらっしゃいます。手紙を書かれる方は今はいらっしゃいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	催し物の写真、作品、花を飾り、明るい雰囲気作りに配慮しています。ホールにはソファを設置しテレビを見たり、新聞を読んだり自由に過ごせるように配慮しています。	居間兼食堂の壁に利用者が制作したジグソーパズルの写真が飾られていたり、掃き出しになっているベランダから直接自家菜園がある庭に出ることができる。 居間兼食堂の片隅にはテレビとソファが配置されており、利用者が自由に寛げるようになっている。 廊下には季節が感じられる利用者の作品や七福神のぬり絵、花のちぎり絵等が飾られている。 廊下に3台の加湿器と各利用者の居室に濡れタオルを置き、住まい全体を常に湿度60%を保つように空気調整をし、感染防止も含めて安全で過ごし易い環境になるよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席やホールのソファで気の合った利用者様同士が思い思いに過ごされています。一人で読書などをして過ごされている方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの物品や家具を持ち込んでもらい、自分らしい居室に整えられています。	居室にはクローゼットやカーテン、エアコンが備え付けられている。 利用者にはベットや衣装箱、家族の写真、目覚まし時計、今まで使用していた品々や趣味の物品などを持ち込んでもらい、居心地よく暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合った歩行器、杖を使用して頂き、必要な場所には手すりを設置して安全に自由に歩けるようにしています。備品庫には鍵を掛け安全に配慮しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム江戸崎桑林

作成日 平成26年7月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や災害時利用者全員を安全に避難させるためには地域住民の協力体制を作る必要がある。	火災や災害時地域住民にスムーズに避難協力をしてもらえる体制を作る。	半年毎の避難訓練実施前に近隣の方々に避難訓練参加協力願いのチラシを配る。近隣の方にお問い合わせする役割を明確にする。	次回平成26年9月の避難訓練時に実施予定。以降半年毎に行なう予定。
2	33	看取りのマニュアルを作成したが看取りの経験者がおらず実際に即した研修が行なえない。	職員が不安なく終末期の介護をおこなえる体制を作り、利用者様に安らかな最期を迎えて頂けるよう努める。	連携している医師や看護師に豊富な経験に基づいて職員研修を行なっていただく。その時に連携体制についての話し合いも行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。